

## 第2回 三好市「生涯活躍のまちづくり」構想のための官民検討会

### 【議事概要】

1. 日 時：平成28年5月31日（木）13時30分から15時まで
2. 場 所：三好市役所本庁3階第一会議室
3. 出席者：委員6名中6名出席
4. 議事次第
  - (1) 第1回会議の要旨について
  - (2) 三好市生涯活躍のまち構想（案）の変更点について
  - (3) 意見交換

### 5. 議事概要

#### 【事務局】

只今から第2回となります三好市生涯活躍のまちづくり構想のための官民検討会を開催させていただきます。開会にあたりまして三好市副市長よりご挨拶を申し上げます。

#### 【副市長】

本日は皆さま大変お忙しいなか三好市生涯活躍のまちづくり構想のための官民検討会にお集まりいただきまして大変ありがとうございました。前回は、3月17日に開催し、今日お集まりの各位皆さまより、非常に貴重なご意見を賜りました。今回は、前回いただきました意見を基に修正案をお示しいたしております。引き続きまして、委員皆さまにおかれましては、活発なご意見をいただきたいと思いますと考えております。それを受けて、実現可能性のある計画をつくっていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、今後の方針につきましては、本日の会議の後、行政内部の組織横断的に設置しております会議で精査し、構想及び基本計画を成案化していきたいと考えます。

さて、地方創生を後押しするための「地域再生法」が改正されました。そのなか、地方創生に向け、先進的な取り組みを進めます地方自治体を支援する「新型交付金」制度が創設されました。

今回ご議論をいただきます「生涯活躍のまち構想」も「地域再生法」に位置づけられたことから、成案化された三好市版「構想・基本計画」を、「地域再生計画」として申請し、国の認可を目指していきたいと考えておりますので、委員皆さまには、引き続きご協力をいただけるようお

願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

<事務局説明>

・三好市「生涯活躍のまちづくり」構想のための官民検討会の設置要綱の変更について資料1により説明

・会議の公開、三好市ホームページで会議録の公開について説明

<議事(1)～(2)について>

・事務局から資料2について説明

<議事(3)について>

【座長】

それでは、質疑並びに意見交換のほうに移らせていただきたいと思います。事前に資料を送付させていただいており、委員の方々が目を通され、コメントをいただいた上の資料だと思いますが、あらためて構想案について、コンセプトの話ですとか、具体的なエリアの話ですとか、それから事業運営の形態とか評価とか、かなり多岐に及びますが、まずは全体を通してご意見があれば、まずお出しただいて、その後、個別に協議をいただくことにします。

まず、自由にこの構想についてご意見がいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

この構想の中で大きな骨格をなしているのが、空き家の活用であり、地域資源として「空き家」を活用してくことを位置づけていますが、三好市の中で空き家はどのぐらいの数があり、また利用できる空き家がどのぐらいの数があるか把握されていますか。

【事務局】

正確には把握しきれないのが現状でございます。

【委員】

空き家の調査をする中、空き家の流動化が実現できない大きな問題が見えてくる。それは相続や、さまざまな背景があり、空き家を活用したいと思っけていても、現実にはなかなか活用できない

ことで各市町村が大変苦労されている。そういう意味でも、利用できる空き家の把握は、この空き家を活用する上で、非常に重要です。

また所有者との関係というのは非常に重要になります。だから、こういう構想をつくる時に、集落を形づくっていくための一つの方法論として、空き家の所有者、それから移住予定者、そして地域の住民の方々、この3者の関係をいかにうまく構築していくかが重要です。空き家の所有者が県外に出られても、地域の古くからのご友人との関係性があれば、大分違いますよね。いかに空き家所有者の気持ちを動かしていくかというのは、この構想の中で私は原点だと思います。

そのところが少し力が抜けているように思います。もちろん皆さん方が考えられているものだと思いますけども、そこは構想を実現させていくための方法として重要な話です。だから、地域住民と協力しながら、集落を活性化させるという気持ちをもって、生涯活躍のまちに取り組んでいくというぐらいでなければ、なかなか現実味を持って、ある事業者だけが頑張るという話では違うと思います。そこは、基礎的な部分を押さえていくことが何より重要であることから発言させていただきました。

#### 【座長】

空き家の改修の話は幾つか出ているとは思いますが、現状把握も含め、事業を進めていくに当たったポイントの構想の後段に記載するか、あるいは前段のところでもう少し空き家の問題をクローズアップしていくことができるでしょうか。

#### 【事務局】

三好市では現在、シニア層の地方移住を促進するための実証実験に取り組んでおりますが、今回、4つの仮説を立てております。1つは（移住者の）仕事の課題、また住居の課題、コミュニティの課題、健康寿命のサポートと、これらを検証していく上で、お試しの住居施設を構えるようにしております。4月から空き家の調査をしています。やはり個々の物件ごとに条件が違うのがよくわかります。今後の課題ということで、構想の後段、最後のところに記載し、その課題に対しどう取り組んでいくか検討していきたいと思っております。

#### 【委員】

もちろん、実証実験ですから、いろんな検証をしていく中で出てくるものがある。たちまち、事務局が動かれて、空き家って具体的に動かすのは大変だなとも思われたわけですよ。一担当者

で動かそうと思うと難しい。しかし、周りの人たちとか、住民が協力すると動くケースもあります。

例えば、小学校の同窓会を開いてもらいます。そこで、昔懐かしい話を交えながら、市の活性化案（生涯活躍のまち構想）を我々は持っているので、一緒に協力してもらえないだろうかとお願ひする機会・きっかけを設けていくことが重要ではないのでしょうか。一つの方法として同窓会の支援を行政がやっていくべきだと思います。実はゆかりのある人材とかネットワークを構築できるのは同窓会なんですよ。

#### 【座長】

4 1 ページの評価の考え方について、課題への対応を進めていく上で、やらなきゃいけない空き家の問題、コミュニティの問題を含め、まずは地域ぐるみで取り組んでムーブメントをつくっていくことも、構想実現に向けての重要なポイントではないかと思いますが、この辺を具体的に書いていただくと、三好市らしさが出てくるかなと感じましたが、いかがでしょうか。

#### 【事務局】

そうですね。もう少し掘り下げ、見えるようにしていきたいと考えております。

#### 【委員】

（空き家の活用を）具体的に動かすためのプログラムをいかにつくっていくかというのはかなり重要ですね。実は動かないということで、そこで皆さん止まられる。空き家の利用も多面的になっています。つまりいろんなやり方があります。例えば、定期借地で法律的に担保しながらやっていくとか、貸すのも1室だけ荷物を置いているから貸せないという所有者へは、1室だけを貸していただくというやり方がある、お試し居住であればあります。そんなバリエーションをつくっていくことは、かなり重要ですよ。そのバリエーションの中で、どれを選択するかは借りる方の判断だろうし、だけどバリエーションが示されなければ、貸す側も判断できないですね。そういうメニューをつくっていくということが重要ですよ。

#### 【委員】

今後、空き家がどんどん増えてくると思います。というのは、三好の人口って団塊の世代の第一次ベビーブームあって、この方が今施設に入所されたり、もしかしたらお亡くなりになられていたり、空き家が増えているんですね。その空き家を誰が所有しているのか、調べていただい

たら、結構出てくるのではないかと思います。

【委員】

所有者まで特定できませんが、どんどん空き家は増えています。だけど、貸したり、売ったりするという動きがないというのが、徳島県内の市町村の実態だろうと思います。だから、それを動かす手だてとして、行政が動くのではなくて、住民の人たちが動かす仕組みをつくっていくとか、集落の中、地域の中でつくっていく形が必要だと思いますね。

【委員】

現在、年齢が50から上の方は苦渋の選択でこの地を離れた方々が多いのだろうと思います。後ろ髪を引かれる気持ちがあるから、地縁と血縁のあとを物として残しておきたいということで、仏壇ですとかも持っていかずに位牌だけをお持ちになって家に残している。そのなか、この荷物を残している家を貸してほしいと言っても、それは貸してはくれません。自分と故郷との紐帯が切れたような感じになるからです。だから、例えば5年なら5年間、そこにあるものを行政が責任を持って保管をしますという話をしないと、家屋の流動化を得るとするのは難しいだろうと思います。流動化のネックとなるところは行政でなければできないと思いますので、どこまで行政として踏み込むのかということは、行政として考えるべきであろうと思います。

【委員】

前回（第1回官民検討会）での意見に関しては、それぞれ三好市としての考え方を明確にさせていただいており、構想案へ具体的に反映されているので、これに関しては別にこれ以上申し上げることはありません。

ただ、全体を網羅して、よくなったためかもしれませんが、三好市らしさが逆に薄くなってきつつあるのかなということも一方で感じます。このような構想を拝見する際、例えば三好市という名称を他の市の名称に置き換えると、どこに矛盾が生じるのかを見ていくと、結果、その土地ならではの切り口となりますが、この構想では、三好市の特徴が書いてあるページを除くと、どこの自治体でも同じようなことが総花的に書いてあるようにも見えますね。これから先、この構想を具体化していくときに考えなければいけない極めて重要なポイントだと思います。全体的に魅力を総花的に打ち出しておいて、それでターゲットとして三好市にご縁を持つ方を呼び込んでくれば、それは受け皿として全く問題はないですよ。ですから、マーケティング戦略で特化していくのか、あるいはC C R Cとしてのコミュニティで尖ったものを訴求するのか、そのあたり、

今後考えていかないといけないところではないかなというのが一点ですね。

それから、30ページの具体的な数字をどういう根拠で上げているのか。総合戦略との絡みがあるとは思いますが、そうであれば、ここからさらに2次的、3次的にこの数値に示される方々が、どれぐらいの雇用を生み出してほしいと期待しているかも含め、この部分を見えるようにすれば訴求力があるものと思います。

今後のことにも触れますが、先ほども申し上げたとおり、各自治体、今同じような議論をしています。それで、この構想・基本計画を基に事業主体を探していく、あるいは国のCCRCの進め方からすれば、公募をされていくステップに進みます。実際、公募をしたときに、果たして事業主体から手が挙がるのかというのがそれぞれの地域で今一番悩まれているところだと思います。構想は良いが主体が見えない。40ページの役割分担のイメージ図では、サ高住としての住まい、医療法人や介護事業所といったような組織があり、さらには、教育機関があり、その他の関係機関があり、これらを全部束ねた運営推進法人という位置づけとしたとき、その法人は現存していないことが、今後構想を現実に移していくときに考えなければならない大きな課題になると思います。その意味で、この運営推進法人の姿をどのような事例、ケースを想定されているのか、構想を公表する段階では可視化しておかないと、事業主体が見つからないという結末になりかねないと思います。

今後、どういう地域で、空き家の問題もありましたけれども、住まいから整備を始める、あるいは集中した拠点と住居を一体化して整備をするところから始めていき、さらに空き家も含め面的な広がりを持たせていくのか、この生涯活躍のまちが目指しているのは施設型なのか、エリア型なのか、タウン型なのか、その部分の具体をご覧いただいたほうが良いと感じました。

#### 【座長】

非常に重要な指摘で、幾つかポイントがありました。国として最低限度を満たさないとならない基準がありますが、それに三好市らしさをどう乗せていくのか、特にマーケティングの観点からいくと、対象となる年代層が、あるときは40代、また50代と書いてみたり、シニアと書いてみたりと、記述が統一されていないところもあります。国は東京圏等からの移住を想定していますが、三好市では近畿圏も含め対象になるかもしれないし、そもそもとして大都市圏ではなく、関係人口となりえるセグメントを特定しアピールする考え方もあるでしょう。これからの実証実験でそこを確かめていくものと思いますが、どう三好市らしさを出していくのかということのご指摘だと思いますが、何かこういったところに三好市らしさを盛り込んだみたいなのがあれば、事務局から伺いたいと思います。

## 【事務局】

事業承継とか、担い手の確保の観点で、個別具体的な職業が構想には記載しておりません。現状、求められる立地の条件としては31ページのところに示してありますが、想定エリアのうち、箆蔵地域においては、福祉の里と呼ばれ、社会福祉法人さんがおいでになられる。一つそれが核になるものと捉えております。あと今回の実証実験は実行委員会方式で、商工会議所さんにも入っていただいております。現状としましては、商工会議所さんの会員さんを通じ、どのような専門人材が求めているのか、調査を進めていただくよう考えており、その成果を反映できればと考えております。

また祖谷・吉野川を中心にした観光資源との連携などを検討しなければならないと感じました。

住居のほうに関して言えば、調査をすれば、都市圏の方々から支持される物件も出てくるものと見込んでおりますが、果たしてそれは三好市固有のものなのかと言われたときに、何をもって三好市の特性として表現していくかというところは、今後事業化に向け検討しなければならないと考えております。

## 【委員】

人は同じところにいるわけではないので、例えばミッションタウンで乞われ、自分の専門性を生かす、人生の二毛作でここに移住してきました。一方で昔みたいにあくせくして暮らしていきたくはないし、趣味の時間も大いに満喫したい。そのときに吉野川があって、ラフティングもあって、いろんなホビーの世界が広がっている。趣味の世界まで実現できる自己実現の場所が近距離圏内にあることを具体例として挙げることも一点ありですね。

もう一点、ご当地には高校が3校ありますね。これもすごい資源ですよ。大学も魅力ですが、高校とか、幼・小・中と、多世代間交流ができる環境があるのは極めて魅力的だと思います。この交流をしていく対象がいると同時に、ミッションの一つとして、子供たちの育成というところがつながっていくので、このあたりをヒントにして、ほかにはない三好市らしさを展開していけば、一つのケースとして訴求できるのではないですかね。

あと、三好らしさっていうのを出そうと思って、三方よしとかという話も前回しましたし、総合計画の中にもそれらしい言葉があるので、3ついいものが常にセットになっているコンセプトを骨格として、それを「三（3つ）よし」という切り口で考えていけば、非常にキャッチーな感じになると思いますね。まずその辺、描ける点はあると思います。

#### 【事務局】

31ページを補足しますと、想定エリアが2つありますが、これはORじゃなくてANDとして考えています。どちらかを選定するのではなく、想定エリアの一つの括りとしての位置づけもあると思います。箆蔵エリアでは高齢者福祉サービス等が充実しています。それから池田の駅を中心とした市街地エリアでは、日常生活に必要な店舗があります。箆蔵の存在は将来的に安心を与え、アクティブに生活し働く場所が池田であると考えてみると、この2つが連携することで、全体が生涯活躍のまちづくりに資するものと認識しています。

#### 【座長】

非常に利便性が高いところで自然が豊かというのは、ほかの地域にない売りだと思えます。実際に中心市街地もあり、社会福祉が充実した郊外の町もあり、観光地を抱えている。こうようなところでのC C R Cのコンセプトとして、ここにはないものをP Rする材料はたくさんあるものと思います。

ゆかりのあるというのは重要ですが、三好市にゆかりがなくても、三好市のファンになってくれる人に対し、どのように住んでもらいたいと思わせ、しっかりと対応していくというのも、地域の特徴になると思えました。これから具体化するなかで、この話を盛り込むか、構想の中でクローズアップしていくのか、そのあたり事務局も含め総括させていただきます。

#### 【委員】

この地に何があるかと考えたとき、教育は大事だと思います。少子・高齢化、社会減もありますが、三好で140人ぐらいコンスタントに生まれています。このなか、さまざまな教育があれば、とてもすばらしいものができるものと思います。

#### 【座長】

数値目標、30ページ、目標値が書いてありますが、今後この数値が確定した場合、P D C Aで回していくことになるものと思いますが、この目標はどういう意味を持つのか、説明をいただけますか。

#### 【事務局】

30ページの計画期間における目標のKPI、三好市生涯活躍のまち構想の推進による移住（希望）者数の定義でございますが、希望される方を含むということになりますので、今回実証実験



を通じ整備するお試し居住施設等を利用される方は当然入るものと考えます。

やりがいがある仕事を通じ、三好市へおいでいただいた方々が、地域主体との交流で付加価値を生むその仕組みをどのように形成していくのか、これを表現しようとした場合、経験豊富な知識や技能人材の誘致を数値化させていただいております。今後、この人材がどのような付加価値を創出したのかというところを含め、精査していく必要があるものと考えております。

#### 【委員】

例えばまだ小さなお子さんがいる女性やご家族は、現在居住地においてPTA活動や、地域とのつながり、お母さん方とのコミュニティが形成されているので、移住をしてもいいと思えるのは、移住先によほどのインセンティブがあるとか、その人がここしかないと思えるか、また自分の第2の仕事をここでやってみたいと思えるかにあると思います。そのほかに、例えば、収入を考えず、ライフスタイルとしてラフティングができればなにもいらないと考える人はおいでになるかもわからない。またITに関しての知識をお持ちになる方をターゲットとし、過疎の山間地が無人運転車を走らせやすいことから、特区の認定を受ける手段もあります。

このことから言えることは、行政も前に出て取り組まないと、将来に対する主観的な期待を持って、三好市で事業をやってみようと思う人は来ないと思います。

だからこそビジネスソースとなるような地域の魅力について、もう少し掘り下げて考え、売り込まないと、インパクトが少ないように思います。

#### 【委員】

全国の自治体が、(生涯活躍のまちの)受け皿になりたいとなったときに、その地域の特性というものを再発見するというのは重要な話であると思います。コミュニティのネットワークづくりは、非常に大きな力になり得る可能性があります。地域づくりとかまちづくりに取り組んでいる人たちは、時間がかかっても、それ取り組み、その取り組みをしているところは確実にUターン、Iターンの現象が起こっています。それは人の魅力だったりするわけですね。そこにゆかりのある、例えば著名人が一人来て、その人が軸になりながら動き始めている例もあるわけです。だけど、いきなりその人を呼んで来ようとしても、その効果は余り少ないかもしれませんね。しかしながら、そこにコミュニティの受け皿があるから、その人たちがおいでになって、力になってただけなのだと思います。こういう話は、本当に地域再生だと思います。コミュニティつくる取り組みをやらないと。

### 【座長】

このような動きのなか、今後、数値目標の設定はマーケティング調査を通じ見直してもいいでしょうし、動きながら目標値を探っていくという感じにならざるを得ないかなと思います。非常に貴重なご意見ありがとうございました。

移住が大変だということは、私も東京にいて非常に感じますし、東京・大都市圏では、親は地方から大都市圏、それも沿線地域に移住しているわけです。仮に、その中の一世帯が移住することになると、家族関係も含めて整理していかないと、なかなか厳しいところがある。しかも、相対評価ですから、いろんな地域で選ばれるための情報提供なり、あるいは一方的な情報だけじゃないと思いますね。本当にいろんな情報が共有されてないと、移住は難しいものと感じております。

あと、事業主体を実際にどう見つけていくのかですね。

### 【事務局】

三好市では、一つは地元の福祉法人が非常に積極的です、ただ、個々の事業者にすべてをお願いしますといっても荷が重い話ですし、非常に難しい。行政もかかわってコミットしていかなくてはと考えています。基本構想・計画をつくり、どなたでもいいです、どうぞご応募くださいでは、うまくつながらなくて、前段階から行政としてコミットすることは必要だと思います。何社かが集まり取り組んでいくやり方について、いろんなところへご相談し、探っていこうと思いますが、今C C R Cの先行事例として先行的に進んでいるところでの、事業主体や、マネジメントについて、わかりやすい事例があれば教えていただきたい。

### 【委員】

国の生涯活躍のまち構想等で、お手本として挙げられているのは、ご存じのとおり、まず「スマートコミュニティ 稲毛」です。四国銀行がメインバンクで、大型ショッピングモールが潰れた跡を拠点施設に使っています。ただ、C C R Cとして見たとき、多世代間交流の拠点になってないので、若干主要要素が抜けている形ですが、非常に面白いケースです。あと、スマートコミュニティ稲毛は株式会社だったと思います。

2つ目が佛子園さんのShare金沢ですね。ここでは多世代交流や、サ高住施設、学生の住居もあれば、障がい児も一緒に、ごちゃまぜの空間ができていて、政府の中でもC C R Cのお手本だと言われています。安倍総理も石破大臣も何度も視察に行かれていますね。

それから、コミュニティネットの「ゆいま〜る」シリーズ。いろんな拠点を日本全国、東日本

がメインだと思いますが、施設型プラスアルファの形でC C R Cを展開しておられますね。

「ゆいま〜る高島平」は、URの空き家対策として、コミュニティネットがその空き家を引き取り、サ高住として改修し、URとの間の賃貸契約を結び、入居者にコミュニティネットが貸している分散型のサ高住ですね。そこに拠点機能を配備している形で、これも株式会社としての運営ですよ。

これらがお手本になり、全国で一斉に検討されておりますけれども、まさに今ご当地が悩んでおられるように、住居、医療、介護、それから学び、その他の役割など、トータルでどこが経営するということになって、そういう具体例は存在しないですね。だから、まちづくり会社など、行政も出資をしながら、新たにつくらない限り、なかなか担い手が見つかるような話ではないですね。自治体では、今、いろんな議論をしていますが、全く同じことを言っています。ですから、ここはみんなが悩んでいるということは、地域的な強みを生かす絶好のチャンスでもあり、そこにまちづくりの根幹となるコンセプチュアルデザインを盛り込むことがポイントですよ。

#### 【事務局】

その場合、誰かリーダーシップのある事業者がいたりすれば、そこを核にして雪だるまが膨らんでくるのでしょうか、みんなもしかすると行政のほうを見ているような気もしないでもない。

#### 【委員】

だから、三セクとか、あと指定管理者というような形でお願いすることがありますけど、今議論しているもの自体、まだルーチン化されていないので、試行錯誤の連続ですよ。うまくやれば、非常に大きな発展が見込めるし、さらに大事なことはコンティニューイングケアなので、一生涯にわたってその拠点が永続されなければならない。その安心感、安定性を担保するためにどうしたらいいのかを考えたときに、行政の主体的関わり、まちづくりとしての主体的関わりが健康福祉の面、産業振興の面、教育行政の面、いろんな意味でトータルに施されていくのは、一つ新たな仕組みづくりには資すると思いますけどね。

だからこそ、新しいモデルをつくる、その動き始めるときの行政支援はポイントなんじゃないでしょうかね。

#### 【委員】

行政主導だけでの話に終始してしまうと、責任の所在が不明瞭となり、方向性はあっているのに、やり方を間違えたために、失敗していくことが危惧されるので、構想の核となる理想のどこ

ろをどう民と共有することかというところですね。そこに時間をかけないとダメでしょうね。

【委員】

そうですね。だからこそ、この基本構想を明確化し、K P I も含めて一定のスパンの中でやることを明確にする、その重要性が問われていますね。

それと、今盛り込もうとするさまざまな面を単にお飾りとして、あるいは総花的に入れるのではなく、明確なミッションと横のつながり、つまり自治体にとり面的なメリットとなるからこそ事業主体として行政の一定の割合で介入があり、永続性も含め議論した上で、市民に説明していかないといけないと思います。

【座長】

この問題は、この会議だけではとても言い尽くせないと思います。リスク分担と方向性、ベクトルをどこに持っていくのか、失敗したら行政が補填する形にしてはいけません。

いろんな企業が共同で持ち合い同じ方向性を向くような事業はうまくいってます。工業用水の一つ、埼玉県にあります。池を企業が共同で使う管理を三セクでやる。要するに、共通のリスクマネジメントも便益も基本的には一致してますよね。それがなかったら、自分のところに工業用水の水が来ないわけですから、というような形態だとか仕組みの問題だと思います。その仕組み・目的をどうするのかは、具体化するときに検討する場はあっていいと思います。

【委員】

今回の生涯活躍のまちづくりでは、高齢者が地方で健康でアクティブな生活を送ることの支援に重点を置っていますが、健康づくりに積極的に取り組むインセンティブとして、C C R C の居住者を含み、市民の要介護度が改善を促す制度を設けるとか、居住者が社会貢献活動に取り組んだ場合のポイントシステムができたらいいですね。

【座長】

システムをうまく回らせる仕組みですよ。これは具体化していく上で検討いただきたいですね。

これ以外にもまだ職種、産業のマッチングの話があります。経験豊富な人材を受け入れることにより、三好市の産業構造をどう変えていくのか、誰がどう支援するのかという話もまだこれから議論のポイントだと思います。

【委員】

事業主体もビジネスとして成立するかどうかで主体になりうるかの判断がなされる。お金の部分の記述がないことが、事業主体を呼び込んだり、地域での現実の話として捉えていただくために欠けている気がします。そのことが、K P Iに当然絡んでくると思いますね。だから、5年間でこれだけの人数を目標にしましょうと。そのことが、ひいては行政的には総合戦略、人口ビジョンの話があり、総合計画とリンクしておけば、これは行政的に腹に落ちるっていう話になりますよね。その部分をもし補足ができるようであれば、是非追加をしていただきたいと思います。

【事務局】

構想・基本計画ができた後は、当然、運営推進法人がどこになるかは別として、事業計画が策定されるわけですが、この事業計画を基として、三好市の財政支援が判断されていくことになると思います。

【委員】

いろんなところで議論するなか、そういう話になりますね。お金の話はかなり難しい話もあるので後回しになる。そのうち介護保険の話とかの話が入ってきて、そこからビジネスとして成立するかどうかの話になって、健康を維持するっていう話が違うところに置いてきぼりになりますね。生涯活躍のまちでは、健康を維持するというのが基本コンセプトにあり、要支援、要介護の方を前提にしてない、ではどこでお金を回すのかという話が必ず出てきます。だから、そのあたりは議論しておかないと、介護保険料や住所地特例など、枝葉末節な話になり、肝心な話にならないので、肝になる部分は入れておく必要があるのではないかと思います。

【座長】

健康を維持するためのビジネスを三好市でどう考えていくのか。そのために大都市のITエンジニアの方に来てもらい、ここで新しいビジネスを開発して、ほかの地域へ売り込んでいくのも一つのモデルだろうと思います。

このビジネスプランをどこでつくるかですが、これは別途これから検討されていくものと思いますので、今のご指摘のような話については、そこで検討していただきたいと思います。

今回の構想委員会は2回ということで、後は個別に委員の先生方のご意見を聞きながらまとめ

させていただきいただきます。また文言の不統一性など、幾つか修正がありますので、私と事務局のほうで直させていただきたいと思います。

長時間にわたり、非常に有益な活発なご意見をいただきましてありがとうございました。生涯活躍のまちづくり構想案としては非常に重要なポイントをご審議いただいたと思います。それでは事務局の方にお返しをさせていただきます。

以上